

(株)地域計画連合の 被災地の復興まちづくりに係わる主な業務実績

平成 29 年 3 月

近年繰り返される大規模な地震による被災地区の復興計画の作成とその実現に向けて、被災者目線に立ち、市町村の復興まちづくり計画作成から、個々の生活再建の実現に向けた、その時点に応じた合意の積み上げによって、適確プロセスに応じた実現プログラムの提案を通して、復興まちづくりを進めました。

01 中越地震の被災と復興の経緯..... 1

旧山古志村は、平成16年10月の新潟県中越地震により14集落のほとんどの住民（2,167人）が仮設住宅での避難生活を送ることとなった。中でも油夫、梶金、木籠、大久保、池谷、櫛木の6集落は、道路・宅地の崩壊や住宅の全壊など被害が著しく、平成19年4月まで避難指示が継続されることになる。

この6集落は、帰村して生活を再建するために、住宅、宅地及び生活道路等を主とする集落再生計画を作成した。

02 東日本大震災における福島県新地町の復興まちづくり10

福島県新地町は、平成23年3月の東日本大震災により沿岸集落が壊滅する甚大な被災を受けたが、生活再建の意向を丁寧に聞き取り、オーダーメイド方式で合意形成を図り、7カ所の高台移転計画を早期に実現できた。町役場は住民との信頼関係を高める懇談会方式で復興まちづくりを推進した。

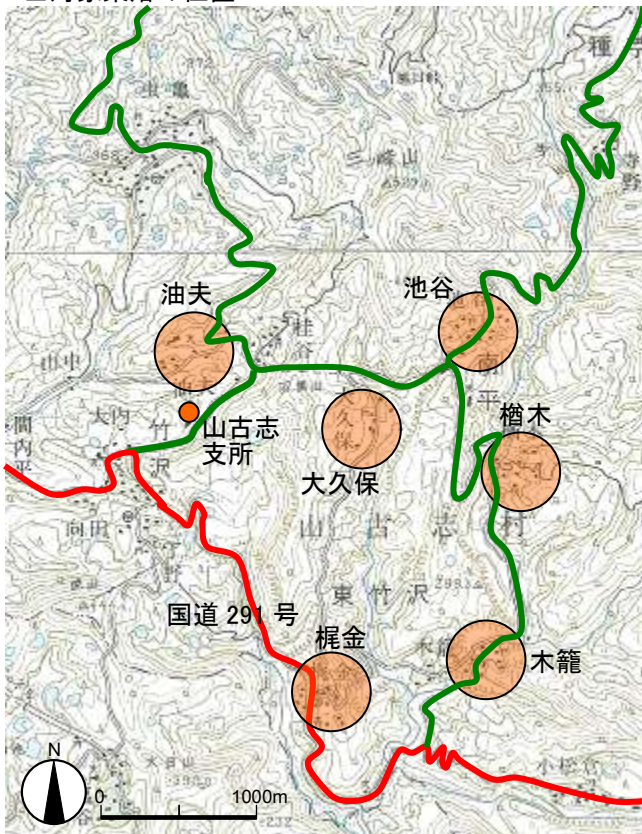
山古志 6 集落の再生の記録

■地域の被災状況

旧山古志村は、平成16年10月の新潟県中越地震により14集落のほとんどの住民（2,167人）が仮設住宅での避難生活を送ることとなった。中でも油夫、梶金、木籠、大久保、池谷、檜木の6集落は、道路・宅地の崩壊や住宅の全壊など被害が著しく、平成19年4月まで避難指示が継続されることになる。

この6集落は、帰村して生活を再建するために、住宅、宅地及び生活道路等を主とする集落再生計画が必要となった。

■対象集落の位置



■被災直後の集落概況

集落名	世帯数 人口	家屋 全壊率	標高 (約 m)	概況
油夫	20世帯 68人	68%	240	・南側斜面で大きな崩壊、山古志小中学校建設予定
梶金	29世帯 89人	100%	200	・国道291号沿道、集落の南北で国道が断絶
木籠	25世帯 67人	100%	150	・河道閉塞で集落が水没。復旧県道沿道に移転
大久保	21世帯 53人	95%	280	・集落東側、東川流域で大規模な表層崩壊
池谷	34世帯 97人	100%	290	・民俗資料館、闘牛場が立地、集落内道路は急勾配で行止りが多い
檜木	29世帯 108人	100%	180	・すり鉢状の地形、河道閉塞で水没、旧池谷小跡地へ移転

(H17.10 住民からの聞き取りを基に作成)

■被災後の集落状況 平成 17 年 9 月撮影



油夫集落



梶金集落



木籠集落



大久保集落

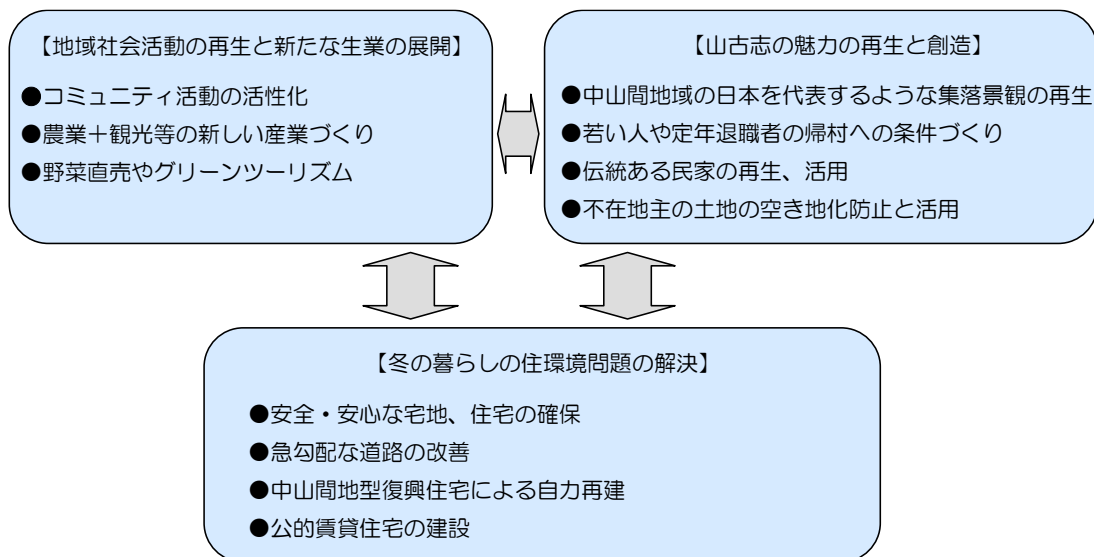


池谷集落



檜木集落

■集落再生計画の基本的な考え方



■計画策定の進め方

①6 集落ごとに懇談会（4 回開催）と個別ヒアリングを開催し、住民の声を計画に反映した。

<p>第1回地区別懇談会（平成17年10月下旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落再生計画づくりの進め方の説明 ・集落ごとの現況と課題の把握 ・震災以前の暮らしとこれからの住まい方について ・集落再生の条件方向性について 等
<p>第2回地区別懇談会（平成17年11月下旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落再生計画のたたき台の提示、説明 ・たたき台に対する意見交換 等 ・今後のまとめに向けた方向性の検討
<p>第3回地区別懇談会（平成17年12月下旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落再生計画のたたき台修正案の提示、説明 ・たたき台修正案に対する意見交換 ・集落再生計画の概ねの合意方向性への合意
<p>第4回地区別懇談会（平成18年3月上旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落再生計画案の提示・説明、意見交換 ・その他継続検討課題について ・帰村スケジュールについて 等



②アドバイザーを入れて、5回の作業部会を開き、集落ごとの課題の共通理解に努めた。

<p>第1回作業部会（平成17年11月上旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況調査、懇談会を踏まえた集落の課題の整理 ・集落再生計画たたき台作成のための条件整理 等
<p>第2回～4回作業部会 （平成17年12月～18年2月）</p>
<p>第5回作業部会（平成17年11月上旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落再生計画案の提示、説明 ・その他継続検討課題について ・今後の進め方 等



年 表

年	月 日	山古志地域災害復旧の経過	6集落再生計画の経過
平成16年	10月 23日	中越地震発生	
	10月 25日	全村避難完了	避難所生活始まる
	10月 27日	仮設住宅建設開始	
	12月 10日	種芋原は新陽に、虫亀は青葉台仮設住宅に入居開始	
	12月 14日		6集落等327世帯は陽光台仮設住宅に入居開始
	12月 23日	山古志村民が仮設住宅「入村式」	
平成17年	1月	復興計画検討	木籠集落集団移転を希望する
	2月	復興委員会で復興計画策定へ	
	3月	山古志村復興計画	
	4月 1日	長岡市山古志村合併	
	4月 22日	震災復興産学連携シンポジウム・小千谷	
	5月		家屋被害調査始まる
	6月 9日	第1回中山間型復興住宅委員会	
	7月 22日	8集落で避難指示が解除	
	8月 10日		小規模住宅地区改良事業基礎調査事業承認
	9月 15日		6集落再生計画調査開始
	9月 16日	油夫を除く竹沢で簡易水道通水	
	10月		6集落再生懇談会開始
		10月 23日	震災1周年追悼式
	12月 26日		集落再生計画中間報告
平成18年	2月		個別聞き取り調査
	3月		集落再生計画策定
	4月		小規模住宅地区改良事業計画の作成(～6月)
			木籠宅地造成工事(～9月)
	5月 31日		木籠現地見学会その1
	6月 11日		檜木現地ワークショップ(6/9～6/11)
	7月 7日		梶金集落に送電再開
	7月 14日		大久保集落に送電再開
	8月 11日		池谷集落に送電再開
	8月 12日		油夫集落の避難指示解除、油夫簡易水道通水
	8月 17日	山古志トンネル開通	
	9月 1日	山古志支所開所式	
	9月 3日	国道291号全通	用地測量、土木設計(～12月)
	9月 6日	山古志診療所再開	
	9月 11日		木籠現地見学会その2
	10月 1日	中越復興フェニックスマラソン&ウォーク	
	10月 14日		木籠現地見学会その3
10月 14日		モデル住宅説明会	
	10月 23日	震災2周年追悼式	
	10月 30日	山古志小中学校再開	
	11月 17日	木籠橋完成	
	12月 9日	竹沢罹災者公営住宅完成	用地買収補償交渉(～3月)
	12月 22日	地域内道路全ゲート撤去	
	12月 31日	新陽・青葉台仮設住宅閉鎖	
平成19年	1月		小規模住宅地区改良事業変更届け
	2月		小規模改良住宅設計(～3月)
	3月		集落再生実施計画策定
	4月 1日		残り5集落避難指示解除、簡易水道通水
			檜木宅地造成(～8月)
	6月		小規模改良住宅建築工事開始
	7月 9日		木籠造成地地鎮祭
	7月 16日	中越沖地震 山古志 震度6弱	
	7月 27日		木籠に送電再開
	8月 15日	牛の角突き再開 山古志闘牛場	
	9月 4日		檜木に送電再開
	9月 15日		大久保集落祈願祭
	9月 29日	羽黒トンネル開通	
	9月 30日	中越復興フェニックスマラソン&ウォーク2007	
	10月 21日	やまこし ありがとう祭り	
	10月 23日	震災3周年追悼式	檜木天空の郷 感謝祭
			10/末 小規模改良住宅完成
		11月	小規模住宅地区改良事業変更届け
		11月 18日	梶金集落復興祭
	12月 23日	仮設住宅帰村式	仮設住宅から全員撤去、帰村
	12月 28日	山古志支所長岡支所閉鎖	
	12月 31日		陽光台仮設住宅閉鎖
平成20年	1月		各集落でさいの神
	3月		集落復興プラン策定

梶金集落

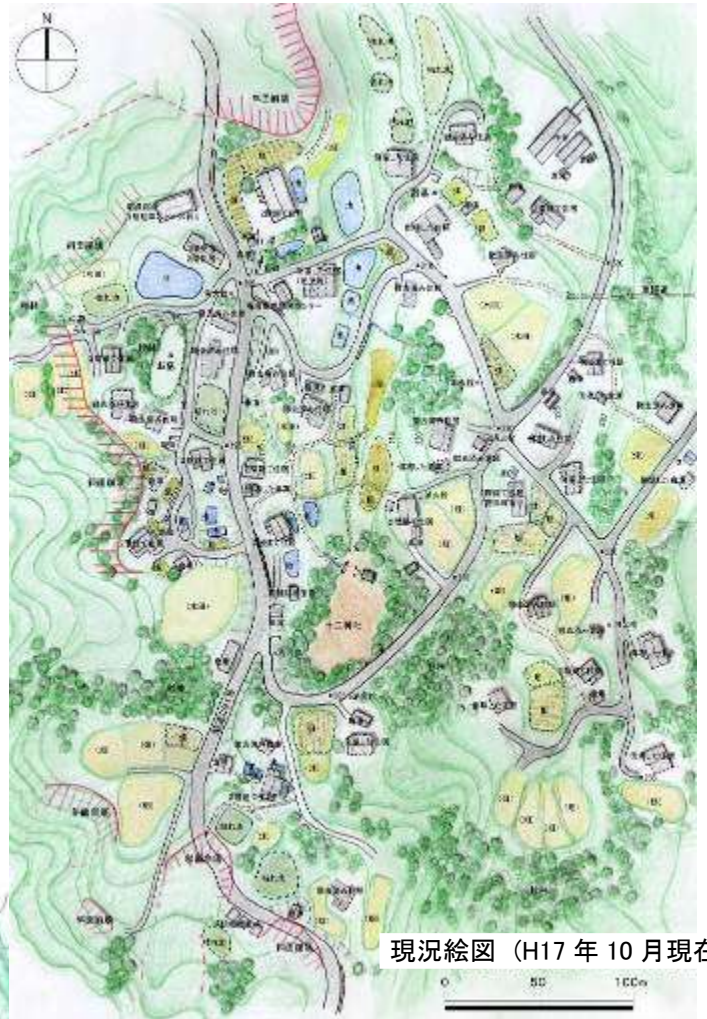
■集落の被災状況

住宅は全戸全壊した。そのほか牛舎、倉庫・納屋等もほぼ全壊であった。また、宅地に亀裂のあるものも数多くみられた。

集落の北と南で大規模な地滑りが発生し、国道291号が寸断して集落が完全に孤立した。集落内の市道は亀裂、陥没が数ヶ所で発生し、大久保集落、木籠集落へ結ぶ市道は大きく崩壊し、通行できなくなった。



国道 291 号(集落北側)



現況絵図 (H17年10月現在)

集落再生計画図(H18年3月)



■集落再生計画

斜面の緑の中に落ち着いたたたずまいをみせる住宅が点在し、集落内から周辺に広がる散策路を楽しむことができる、『来訪者が足を止め、交流が生まれる美しい集落』を再生目標とした。

集落の中心部の環状道路の急勾配を改善し、冬でも車が利用できる道路にすることとした。



交流センターの検討

■再生事業の実績 小規模住宅地区改良事業

①地区整備計画

集落の全住宅 34 戸が不良住宅であった。不良住宅のうち 1 戸は本事業を活用して除却し、改修を除く他の不良住宅は被災者生活再建支援金等を利用して除却された。

土地整備は小規模改良住宅用地のほか、S 字及び U 字道路については道路法線の変更を伴って改良整備した。

②建設計画

帰村世帯 18 世帯のうち、16 世帯は自力再建により住宅建設を行い、小規模改良住宅を 2 戸建設した。

③居住者移転計画

自力再建 16 世帯のうち、4 戸が既存住宅を改修、9 戸が従前敷地に再建、3 戸が新規に宅地取得して再建した。

転出した 11 世帯のうち、2 世帯が地区外に土地を求め自力再建、2 世帯が民間賃貸住宅に入居、その他（地区外の子供と同居する等）7 世帯となった。

④土地の引渡し計画

道路用地として約 3,000 ㎡、小規模改良住宅用地として約 1,400 ㎡を長岡市が管理することとなった。

⑤資金規模

事業費は、道路及び小規模改良住宅に関する建設費、土地整備費等で約 1 億 1 千 8 百万円となった。

建設計画図



S 字道路の改良整備

■集落復興プラン

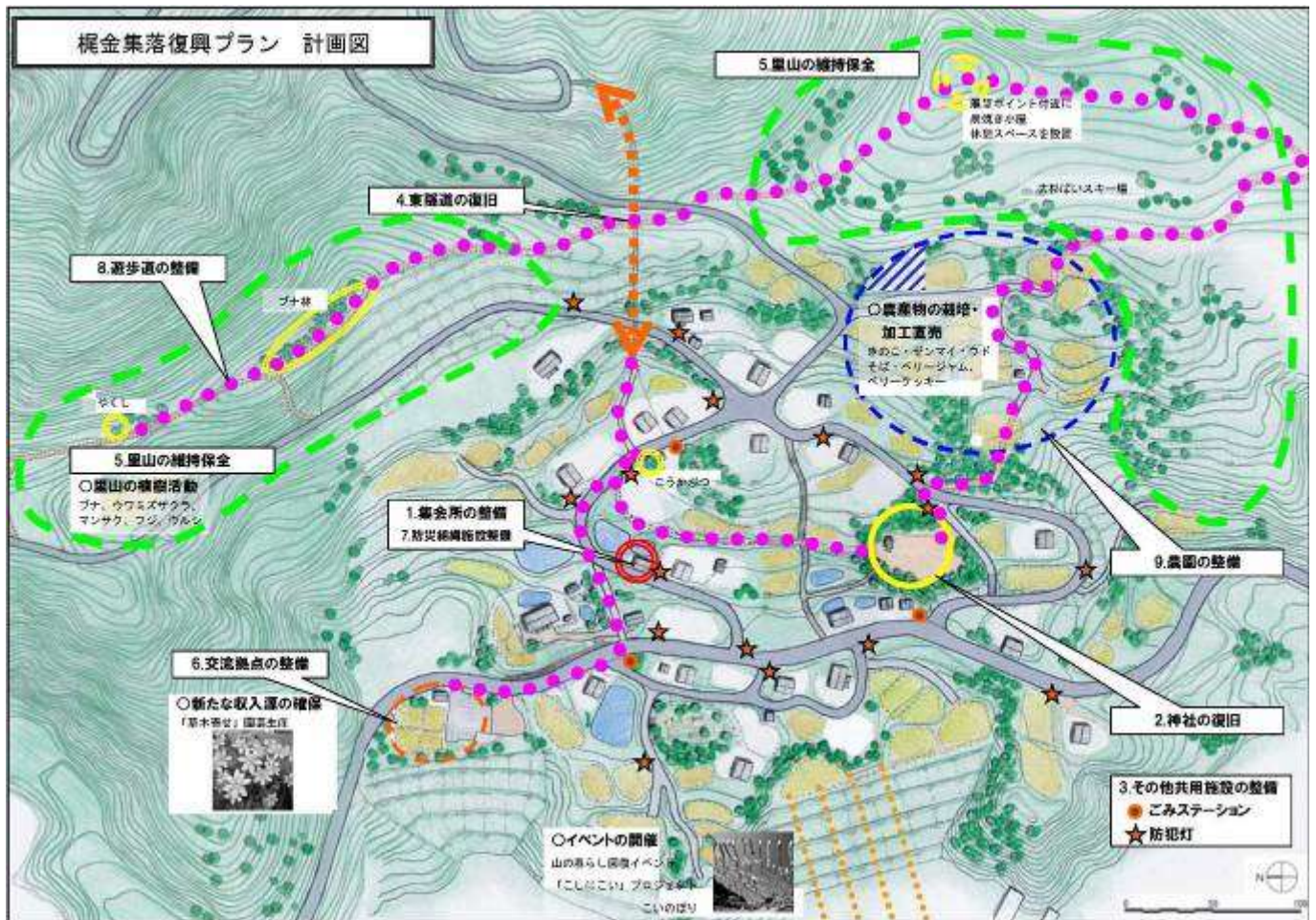
集落復興の基本目標は、「来訪者が足を止め、交流が生まれる美しい集落づくり」で、この目標は、集落住民の楽しみと生きがいを原点としているものである。そのため、交流拠点や遊歩道、市民農園の整備を行うとともに、特産物の栽培と直売など訪れる人が楽しめる場の提供をめざす。また、伝統行事の継承と復活に務めるとともに新たなイベントの開催を企画する。



コウカブツ(シンボル樹:桂の株立ち)



集落の冬景色



木籠集落

■集落の被災状況

集落の大部分が水没し、建物、敷地に大きな被害を受け、住宅は全戸全壊した。

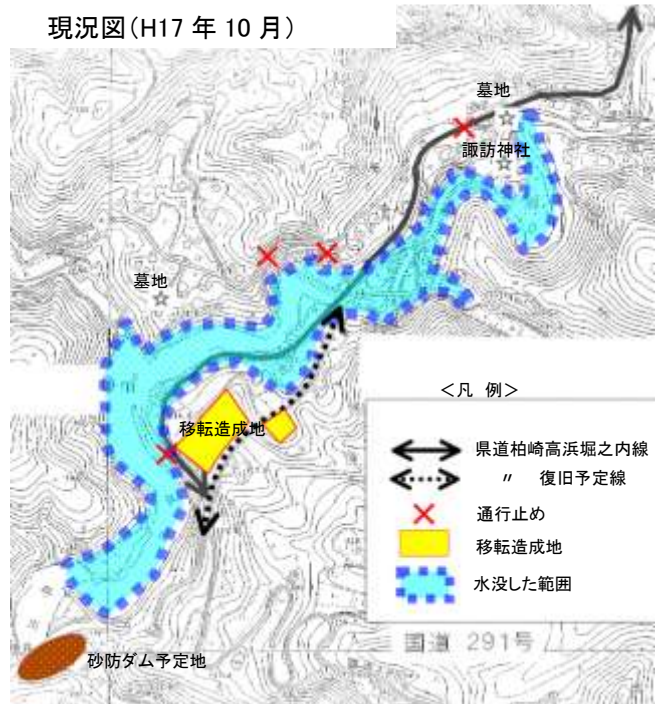
集落の主要道路である県道柏崎高浜堀之内線の南側は河道閉塞により水没し、通行ができなくなった。また、北側でも地滑りが発生して地区が孤立した。

芋川の河道閉塞によって集落内の道路は土砂埋没箇所が多数あった。

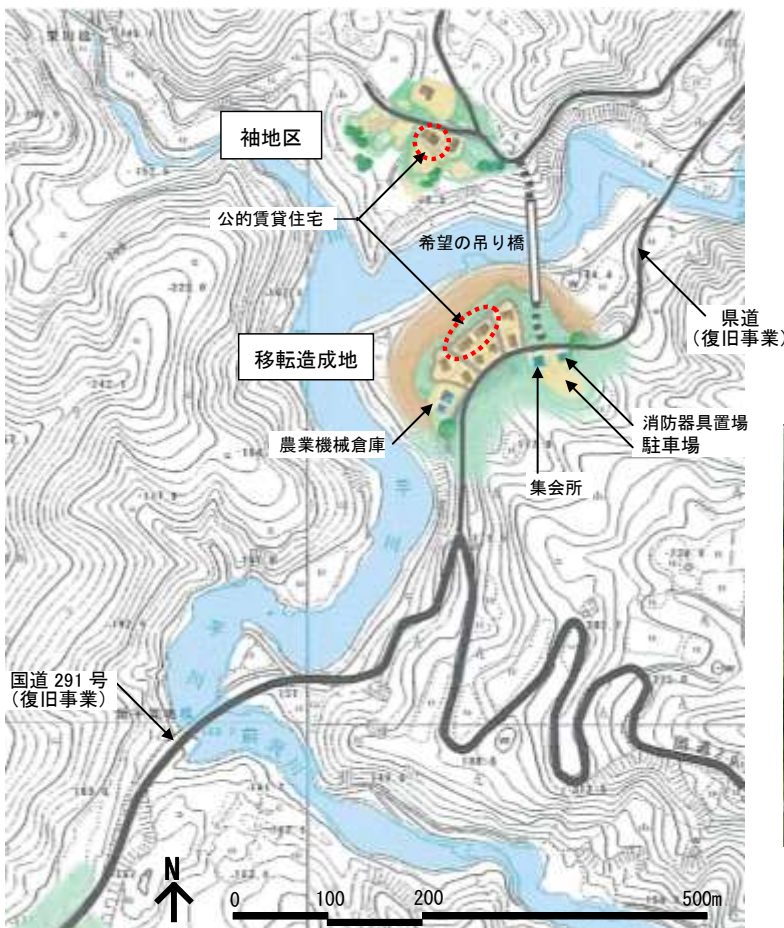


芋川に水没した道路

現況図(H17年10月)



集落再生計画図(H18年3月)



■集落再生計画

集落の姿を印象づけられるよう道路から見た集落の景色に配慮し、集落の活気ある姿を見せることをめざす。また、住宅近くに菜園が楽しめる場所を設け、集落の人だけでなく、外から来る方との交流を図る。『新しい木籠の暮らしを楽しみ、新しい木籠の姿を見せる、創る』を集落の再生目標とした。



造成地の整備イメージ

■再生事業の実績 小規模住宅地区改良事業計画

①地区整備計画

水没のため判定できない住宅を除く全てが不良住宅であり、全世帯で新築、または改修を必要とした。国の砂防事業の対象となった住宅以外は全て除却され、そのうち1戸は本事業で、それ以外は被災者生活再建支援金等で除却された。

土地整備は、小規模改良住宅用地（造成地約2,000㎡、袖地区約400㎡）の整備で、小規模改良住宅用地は、平成19年に測量、設計等を実施し、同年11月までに住宅工事を完了した。

②建設計画

帰村世帯16世帯のうち、10世帯は自力再建により住宅建設を行い、小規模改良住宅は造成地に4戸、袖地区に2戸の計6戸を建設した。

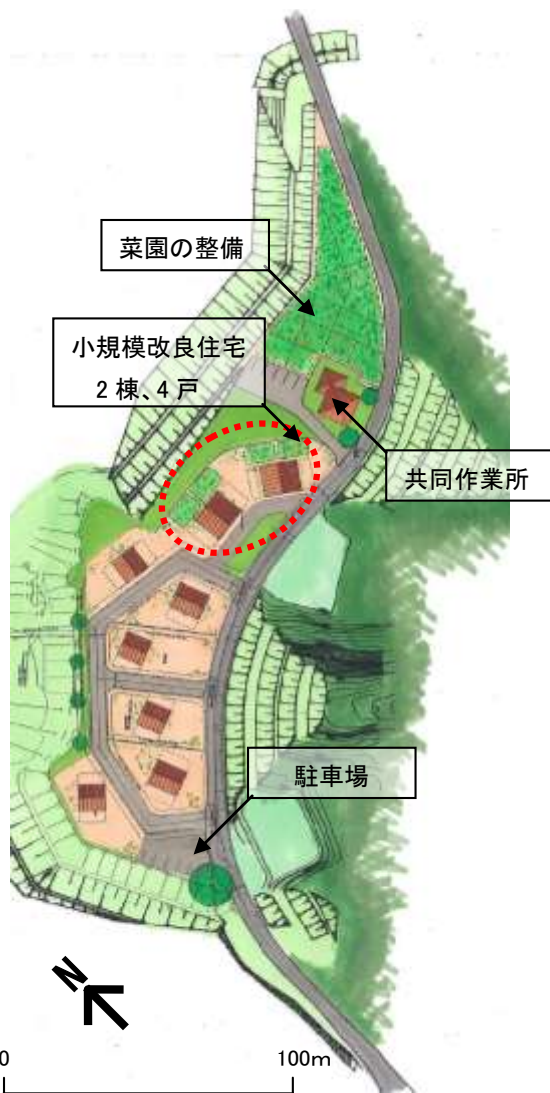
③居住者移転計画

自力再建10世帯の再建場所は、6世帯が移転造成地、2世帯が袖地区、2世帯が神社周辺地区となった。

④資金規模

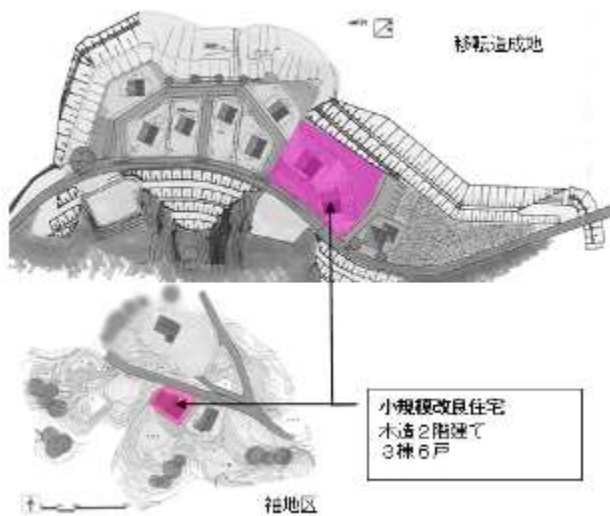
事業費は、移転造成地の宅地等造成及び小規模改良住宅に関する建設費及び土地整備費等で約1億7千3百万円となった。

集落再生実施計画図(造成地)
(H19年3月)



H20.3.20 造成地の冬景色

建設計画図



■集落復興プラン

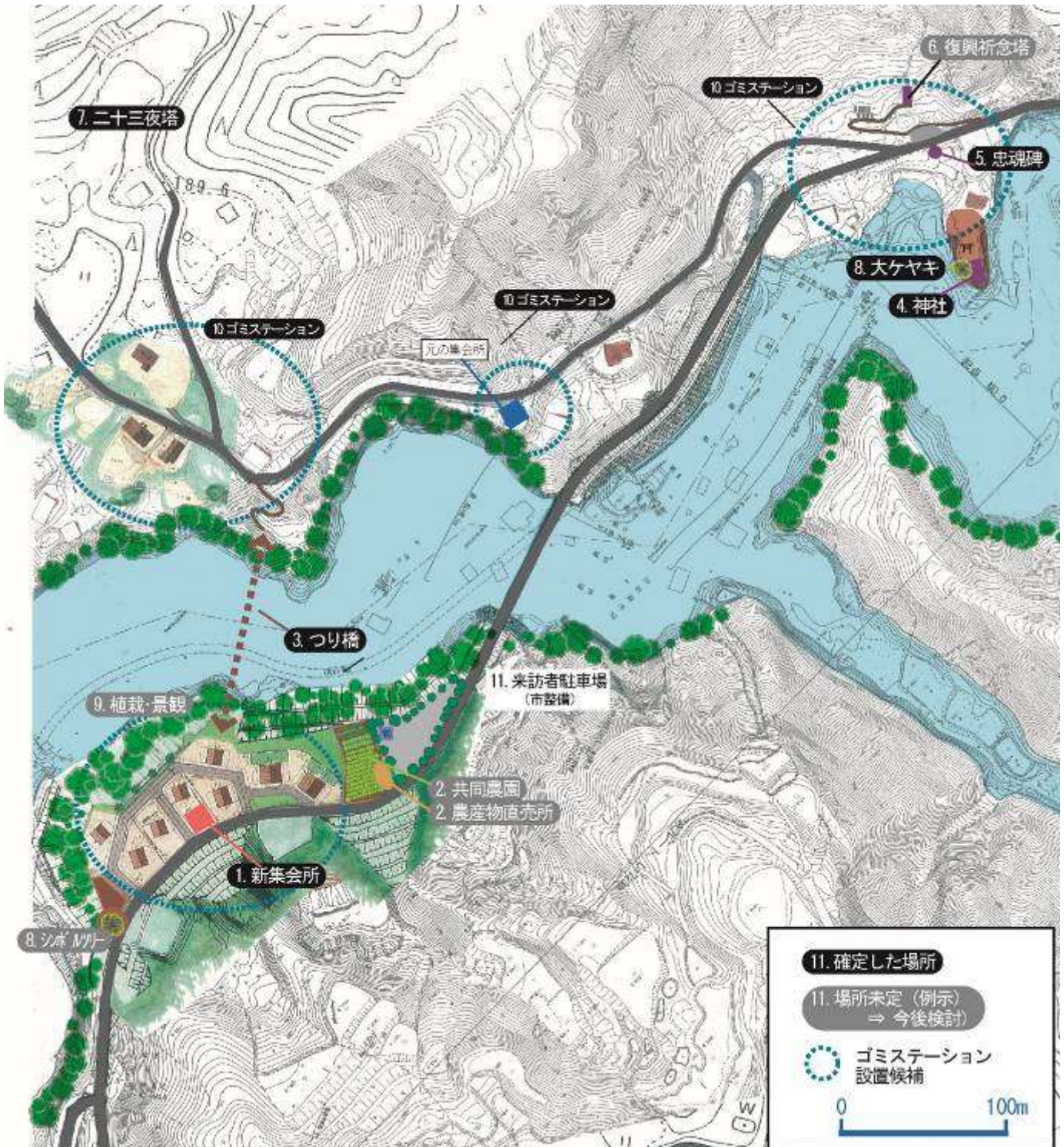
集落復興の目標を以下のようにした。

- 気軽に寄り合い、見守り合う集落づくり
- 訪ねてうれしい美しい集落づくり
- 交流で元気になる集落づくり
- 楽しめる生きがいしごとづくり



H20.1.13 さいの神にて

復興プラン 計画図



福島県新地町の被災状況

福島県新地町での復興まちづくりの経験から
これからの復興まちづくりを考える

2016年9月30日

(株)地域計画連合

取締役 合田 恵宣

江田隆三, 後藤弘幸, 菅原康晃



被災前 2007年6月



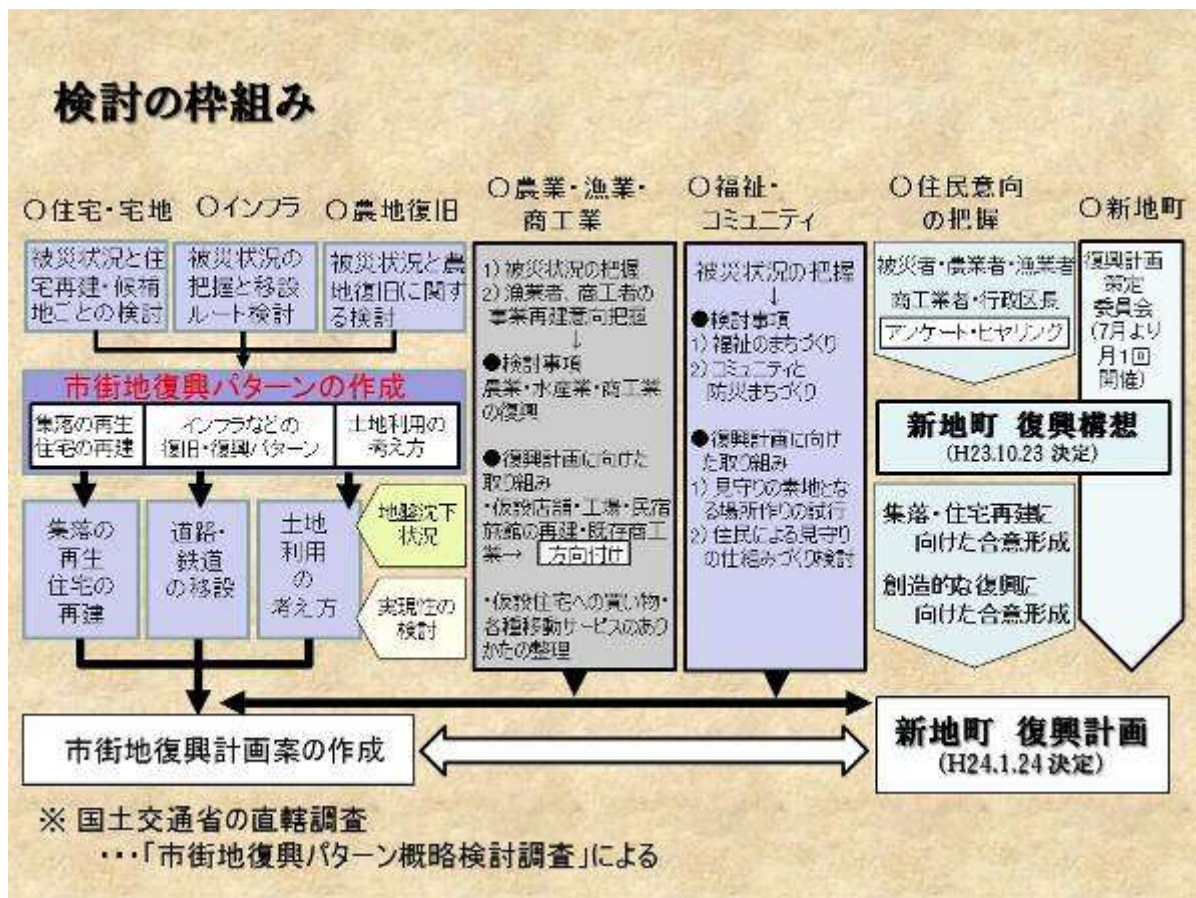
被災後 2011年10月

面積	46km ²
人口	8,387人
地震	震度6強
津波高さ	約10m
浸水面積	約9km ²
死者(*)	118人
避難者	2,384人
全壊津波]	467戸

* 関連死を含む



資料: 新地町、河北新報社



きめ細かい意向把握に基づいた合意形成



新地町
第4回 新たな住宅団地計画
懇談会

履小屋地区

2012年10月23日

2013年(平成25年)7月18日(木曜日) 福島民報

被災者の事情に配慮して
オーダーメイドで再建

注目集める
新地町

住民主役のまちづくり

東日本大震災で被災した新地町のまちづくりが注目を集めている。仮設住宅や今後の集住再転移先でもその連携のコミュニティが維持されるよう努めつつ、被災者それぞれの事情やニーズを踏まえた「オーダーメイド」の再建として、日弁連などが評価している。

「地域の人の同じ」と同じで、自宅をそれぞれで暮らす。再建しない世帯も地域から切り離さないよう配慮された。一軒に備え物なし。五十代の女性は、元の家の解体まで、震災に町が併設する二戸建と天の神様も、震災に町が併設する二戸建前は隣同士、町内に入居の災害公営住宅に入居する。一軒に同じく同じく。

「オーダーメイド」の再建は、町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。

日弁連が評価

住民主役のまちづくり。日弁連災害復興支援委員会が、町民約十人が六月、町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。

「オーダーメイド」の再建は、町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。町民一人ひとりが再建する。

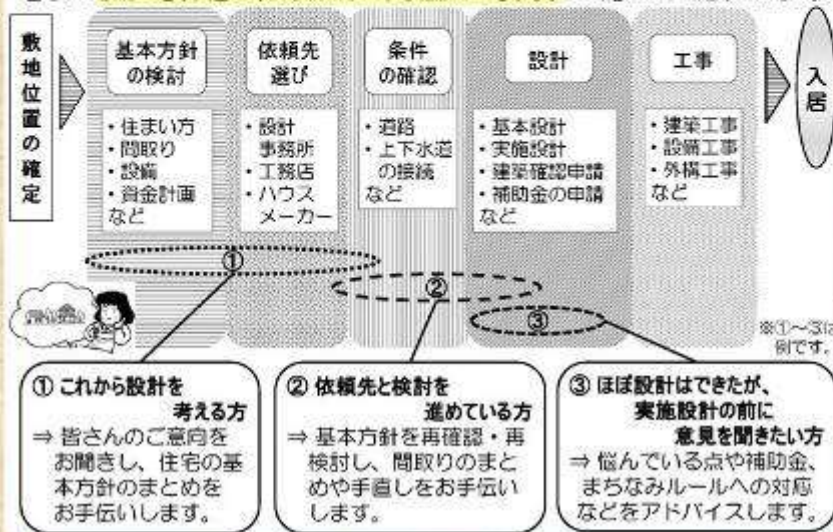
きめ細かい意向把握に基づいた合意形成

住宅建築相談会の実施(2013.1~2月、7月、11月)

- ・防集団地の着工を受け、移転者の住宅に関する相談会を開催。
- ・国際女性建築家会議日本支部(UIFA JAPON)の協力を得て、延べ約50件の相談に応じた。復興交付金の「効果促進事業」により実施。

住宅づくりの流れと相談の内容

皆さんの検討の進み具合にあわせ、いろいろな相談ができます。お気軽にお申し込みください。



防集見学会と画地の決定

2013年3月



防災集団移転事業の実施状況

新地町の防集の各団地での着工率と入居率

(2016.6.30現在)

団地名	防集 区画 数	着工率		建築中		入居済	
		着工済数	着工率	建築中	建築率	入居済	入居済率
作田東	16	16	100.0%	0	0.0%	16	100.0%
作田西	28	26	92.9%	1	3.6%	25	89.3%
岡	18	18	100.0%	0	0.0%	18	100.0%
雁小屋	58	56	96.6%	1	1.7%	55	94.8%
大戸浜	23	21	91.3%	0	0.0%	21	91.3%
富倉	8	8	100.0%	0	0.0%	8	100.0%
雁小屋西	6	6	100.0%	0	0.0%	6	100.0%
合計	157	151	96.2%	2	1.3%	149	94.9%

(* 災害公営住宅は含まない、
防集団地への移転者による
自力建設の戸数。)



【岡団地】→

11

【新地町の防集団地の建設状況】

(↓ 2012年12月) (2014年12月 →)



【作田東団地】



【大戸浜団地】

